

実行プラン検討表

資料2-4

方策1 地域農産物を活かした農業の充実

方策	具体的な取り組み	内容	手法・スケジュール		
			3年後までに	5年後までに	10年後までに
【旧方策1】 地域農産物を活かした特産化やブランド化の推進	①ゆずやいちごを利用した特産品の開発 ②特産品のブランド化 ③生産・加工・販売までの6次産業化	ゆずやいちごを利用・加工し、付加価値の高い商品開発をめざすとともに、商品のネーミング等にも力を入れ、地域ブランド化を図ることで商品や地域の知名度を向上させまた、インターネットや直売所等による販路開拓を通じ、流通コストを削減させることも必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 地域農産物のブランド戦略・推進体制の確立 付加価値の高い特産品の開発 特産品のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット販売等による販路拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズに対応したブランド品の管理
【旧方策3】 農業法人の設立と農業の6次産業化	①地域ぐるみの農業法人化 ②農業法人による6次産業化の推進	異なる農産物を作っている農家が集まって農業を法人化し、商品の多様化による生産規模の拡大や6次産業化を推進することで、更なる雇用創出の受け皿とする。また、農業法人になるためのノウハウや成功例を参考に、消費者ニーズに対応した柔軟性のある経営方法の検討が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 農業法人の設立（共同経営） 	<ul style="list-style-type: none"> 農業法人による6次産業化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズに対応した農業法人の経営
【第3回自治会議協議内容】	①担い手の育成		<ul style="list-style-type: none"> 農業魅力の発信 就労希望者の募集 勉強会（農業体験）などの実施 		
	②特産品のブランド化		<ul style="list-style-type: none"> ブランド化するための農産物の選定 ブランド品の開発 直売場等での販売 	<ul style="list-style-type: none"> 販路拡大（インターネット等） 	<ul style="list-style-type: none"> 農村レストランの開設
	③6次産業化を目指す		<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化の理解度の充実 6次産業化の組織づくりの確立 	<ul style="list-style-type: none"> 販路拡大のための組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、インターネットなどを利用した販路の充実
	④商品の試作、研究			<ul style="list-style-type: none"> 商品化の充実 	
【事務局:案】	・特産品のブランド化 旧方策1-①②, ②④		<ul style="list-style-type: none"> 農産物の選定(米, ゆず, いちご等) 付加価値の高い特産品の開発 直売場等での販売 	<ul style="list-style-type: none"> 販路拡大（インターネット等） 	<ul style="list-style-type: none"> 農村レストランの開設
	・担い手の確保・育成 旧方策3-①, ①		<ul style="list-style-type: none"> 農業魅力の発信 組織経営体の育成 勉強会（農業体験）などの実施 農業サポーターの登録 		
	・生産・加工・販売までの6次産業化 旧方策1-③, 旧方策3-①②, ③		<ul style="list-style-type: none"> 出前講座の開催 法人化の検討 製造業、流通業との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 農業法人による6次産業化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 販路拡大に向けたPRの充実(インターネット等)

方策2 観光農園などの充実と観光のまちづくりとの連携

方 策	具体的な取り組み	内 容	手 法 ・ スケジュール		
			3年後までに	5年後までに	10年後までに
【旧方策2】 観光農園や体験農園の充実・強化と観光まちづくりとの連携	①ゆずやいちごの観光農園の拡大 ②地域の観光資源（梵天の湯等）を活用した園芸作物の開発と農業の振興	ゆずやいちごの観光農園を創出し、特産化やブランド化により知名度が上がったゆずやいちごを量産する。また、梵天の湯の温泉熱を利用した園芸作物の開発や野菜を収穫体験できる体制を構築し、観光振興と連携させて地域内外の人との交流を推進することで、地域と農業を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ゆずやいちご観光農園の創出と拡大 観光振興との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ゆずやいちごの量産化 野菜収穫体験農園の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉熱を利用した園芸作物の開発
【旧方策5】 スマートIC周辺を中心とした産業の開発・誘致	①物流・交流拠点（施設）の開発と誘致 ②農業の6次産業化や観光まちづくりとの連携	スマートICのフルインター化による周辺地域の産業の発展が、地域の経済に大きな利益をもたらすには、インターの利点を活かせる物流・交流拠点の開発・誘致が望まれる。また、その経済効果を地域全体に波及させていくためには、それが域内の農業や観光と連携し、地域の産業経済の発展につながるよう、開発計画を考える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> スマートIC周辺の都市開発計画の検討 		<ul style="list-style-type: none"> スマートIC周辺に物流・交流施設の開発・誘致 農業や観光との連携
【第3回自治会議協議内容】	①いちご観光農園の創出		<ul style="list-style-type: none"> 期間限定のいちご狩り農園の確保 いちごマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内外の誘客を図る（PR等） 	
	②体験農園の拡充		<ul style="list-style-type: none"> 休耕地の情報収集 休耕地の利用者の募集 事業窓口の確立（指導者の確保を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 貸農園の確立 	
【事務局:案】	・ゆずやいちごの観光農園の拡大 旧方策2-①, ①		<ul style="list-style-type: none"> 期間限定のいちご狩り農園の確保 いちごマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ゆずやいちごの量産化 ゆずの観光農園拡大 地域内外の誘客を図る（PR等） 	
	・地域の観光資源（梵天の湯等）を活用した園芸作物の開発と体験農園の拡充 旧方策2-②, ②		<ul style="list-style-type: none"> 観光振興との連携 事業窓口の確立（指導者の確保を含む） 休耕地の情報収集と利用者の募集 	<ul style="list-style-type: none"> 貸農園の確立 野菜収穫体験農園の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 温泉熱を利用した園芸作物の開発
	・農業の6次産業化や観光まちづくりとの連携 旧方策5-②		<ul style="list-style-type: none"> スマートIC周辺の都市開発計画の検討 		<ul style="list-style-type: none"> スマートIC周辺に物流・交流施設の開発・誘致 農業や観光との連携

※ は行政に望むもの。他は、主に地域団体が取り組むもの。

方策3 地域資源を活かした観光の推進

方 策	具体的な取り組み	内 容	手 法 ・ スケジュール		
			3年後までに	5年後までに	10年後までに
【旧方策4】 地域資源を活かした観光振興	①羽黒山を核とする地域資源を活かした観光振興 ②観光を地域特産品の販売促進の視点からも	羽黒山・観光ゆず園・キャンプ場・梵天の湯などの連携による観光コースの設置や観光マップを作成することで、観光振興の基盤を確立する。また、観光案内所を兼ねた道の駅を設置し、来客者へのおもてなしを向上させるとともに、地域の特産品の販売促進にもつ	・地域観光振興計画の策定 ・観光コースの設定や観光マップの作成	・ホームページ等による観光情報の発信	・観光案内所を兼ねた道の駅の開発
【第3回自治会議協議内容】	①ゴルフ場・鬼怒川河川敷グライダー施設・高松サーキット場などの民間施設との連携		・標識の充実 ・案内所の設置	・インターネットのHPを地元企業にリンクさせる	・道路の拡幅などのインフラ整備
【事務局:案】	・羽黒山を核とする地域資源を活かした観光振興と民間の観光施設との連携		・標識の充実 ・観光コースの設定や観光マップの作成	・ホームページ等による観光情報の発信	・観光案内所を兼ねた道の駅の開発 ・道路の拡幅などのインフラ整備

※ は行政に望むもの。他は、主に地域団体が取り組むもの。

方策4 道路整備の推進

方 策	具体的な取り組み	内 容	手 法 ・ スケジュール		
			3年後までに	5年後までに	10年後までに
【旧方策6】 道路整備の推進	①安全性を確保するための歩道の整備 ②生活・産業・経済に不可欠な国・県・市道の整備	スマートICがフルインター化されたことにより、大型車両の乗り降りが可能になったため、安全性確保の面から、早急に歩道の整備が必要である。また、生活・産業・経済の改善・発展のため、地域内の道路を整備することも必要である。	・スマートIC周辺の歩道の整備		・地域内の道路の整備
【第3回自治会議協議内容】	①道路の危険箇所の情報を集める		・点検、整備をする	・整備をする	
【事務局:案】	・安全性を確保するための歩道の整備 ① ・生活・産業・経済に不可欠な国・県・市道の整備 ②, ①		・スマートIC周辺の歩道の整備		・地域内の道路の整備
			・道路の危険箇所の情報を集める ・点検、整備をする	・整備をする	

※ は行政に望むもの。他は、主に地域団体が取り組むもの。

方策5 地域内交通の利用促進

方 策	具体的な取り組み	内 容	手 法 ・ スケジュール		
			3年後までに	5年後までに	10年後までに
【旧方策7】 公共交通の充実	①ユッピー号の利便性向上 ②地域に合った公共交通の導入	地域の生活・経済を支えるユッピー号の利便性向上をめざして、運行内容（自由乗降など）を検討するとともに、地域の意見を十分に反映させ、利用者ニーズに対応した運行を行う。また、上河内地域のニーズに合った新たな公共交通の導入についても検討する必要	<ul style="list-style-type: none"> ユッピー号の利便性向上について検討 地域に合った公共交通の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズに対応したユッピー号の運行 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に合った公共交通の導入
【第3回自治会議協議内容】	①地域外への乗り継ぎ ②利用者ニーズにあった公共交通の導入		<ul style="list-style-type: none"> 完全実施する 地域路線バスの料金見直し（70歳以上の人たちへのサービスはあるが、一般の人たちへのサービスも加えてほしい。回数券の発行とか） 地域路線バスの運行時刻の見直し デマンドタクシー利用登録者の増大 地域のイベントごとに、デマンドタクシーの宣伝を多くする 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域間との連携した運行 	
【事務局：案】	ユッピー号の利便性向上 利用者ニーズにあった公共交通の導入 ②, ①, ②		<ul style="list-style-type: none"> ユッピー号の利便性向上について検討 地域路線バスの料金見直し（70歳以上の人たちへのサービスはあるが、一般の人たちへのサービスも加えてほしい。回数券の発行とか） 地域路線バスの運行時刻の見直し デマンドタクシー利用登録者の増大 地域のイベントごとに、デマンドタクシーの宣伝を多くする 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズに対応したユッピー号の運行 地域外へ乗り継ぎを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に合った公共交通の導入

※ は行政に望むもの。他は、主に地域団体が取り組むもの。